

# キッズサッカーにおける子どもの人間関係の変遷

土井 悠介 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：キッズサッカー，人間関係，主体性，コミュニケーション，ルール

## 1. 緒言

文部科学省学習指導要領改訂に伴い，幼稚園教育では平成 21 年度より“生きる力”を育むという理念が掲げられた。(文部科学省，2008). また“生きる力”を育む領域の中でも「人間関係」領域は，以下の 3 要因から構成される. 1) “主体性”：幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わうこと. 2) “コミュニケーション”：身近な人と親しみ，かかわりを深め，愛情や信頼感をもつこと. 3) “ルール”：社会生活における望ましい習慣や態度を身に付けること. とされる.

先行研究では継続的なサッカー教室は，サッカーに直接関与する側面への効果，あるいは自立性などの社会性への効果をもたらすと考えられる。(中山，中井 2012). しかし，“生きる力”における「人間関係」領域に着目した研究はされていない現状にあるとされる. 本研究では，幼児の「生きる力」の発達についての知見を得るとともに，幼児年代へのキッズサッカー指導が「人間関係」の変遷に与える影響について検討することを目的とした.

## 2. 研究方法

高島市立 S 園の 5，6 歳児 14 名を対象とした. 全 10 回中 3 回目プログラム「主に 1 人でボールを扱う：シュートを打ってみよう」を I 期，4 回目「2 人でボールを運ぶ：ゴールに迫ろう」II 期とし，幼児のキッズサッカーにおける様子について担任の保育者の評価をアンケート調査した. 評価は 5 段階評価とし，アンケートは全 12 項目とした.

## 3. 結果および考察

図 1 は，人間関係領域の 3 要因の比較を示している. I 期に比べ II 期は，より“主体性”と“コミュニケーション”の値が高く表れており，2 つの要因で有意な向上がみられた. また“ルール”要因では対応のある t 検定の結果，両者に有意差は見られなかった.

各項目を I 期と II 期との間で比較すると，Q2, 5, 6, 7, 8, 10 の 6 項目で有意な向上が見られた.

## 4. 結論

- 1) キッズサッカーの指導は，幼児らの「人間関係」領域の 3 要因に良い影響がある.
- 2) “コミュニケーション”要因，“主体性”要因は I 期より II 期に有意な結果が得られる.
- 3) 継続的な指導と，安全管理等の徹底により，I 期と II 期に有意確率は無く，“ルール”要因の向上は見込まれなかった.

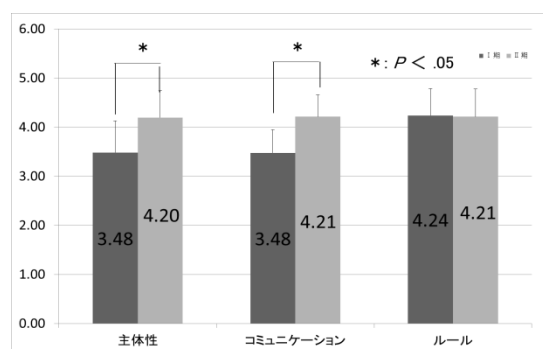


図 1 人間関係 3 要因の比較

## 参考文献

- ・文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領
- ・中山忠彦，中井聖 (2012) 幼児の発育発達特性や社会性の獲得に配慮したサッカー教室が幼児の心理状況や体力に及ぼす効果 近畿医療福祉大学紀要 Vol.13 (1) 23~29.